

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 [公開議題]

議事概要

- 日 時 令和4年6月23日(木) 9:59~10:14
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 上山議員、梶田議員(We b)、梶原議員、佐藤議員(We b)、  
篠原議員(We b)、菅議員(We b)、波多野議員、藤井委員(We b)  
(事務局)  
大塚内閣府審議官、覺道審議官、阿蘇審議官、高原審議官、松尾事務局長、  
井上事務局長補、橋爪参事官、有賀参事官
- 議題 G7科学大臣会合について

○ 議事概要

午前9時59分 開会

○上山議員 おはようございます。まだ少し時間あるのですが、皆さんおそろいということなので、始めさせていただきたいと思います。科学技術・イノベーション有識者議員懇談会を公開で始めます。

本日の議題は、G7の科学技術大臣会合についてということになります。報告をいただいた後で意見交換させていただければいいと思います。では、井上審議官、どうぞよろしくお願ひします。

○井上事務局長補 それでは、資料に基づきまして御説明をさせていただきます。

6月12日から14日まで、ドイツ、フランクフルトでG7の科学大臣会合がございました。出席者は資料御覧のとおりです。日本からは大野副大臣に出席いただきました。

概要の2番目のポツにありますが、これは急遽といいましょうか、会合の直前にセットされたのですが、議長国ドイツの計らいでウクライナの研究科学大臣がオンラインで冒頭参加し、スピーチをしました。現状の科学施設、教育関係施設が大変被害を受けている状況をおっしゃっていましたが、非常に印象的だったのは、もう既に復興を見据えたお話をされておりました。やはり教育と科学研究というのは国を支える土台ということで、これをいかに復興するのかということをもう既に思い描いていらっしゃる。そのために是非G7にも支援をお願いしたいと

いったようなスピーチでございました。

そして、実際の会合の中身については、大臣コミュニケにまとめられておりますので、次のページの大臣コミュニケの概要を説明させていただきます。

総論部分、特に2番目のポツにあります。ロシアによるウクライナ侵略に対するメッセージをG7の科学大臣会合としても出したということが一つ特徴です。既に政府出資によるロシア政府との研究協力については各国一定の制限をしている状況ですが、これに加え、ロシアを離れたロシアの研究者、ロシアによって迫害されたウクライナの科学者、学生の支援についてもG7としてしっかりしていこうということが確認されました。

そして、科学研究というのは本来自由に行われるべきものであることが今回のロシアによるウクライナ侵略により非常に厳しい状況になったということ、G7としても重く受け止めたということ、

具体的な議論はその後にまとめてありますが、三つです。1番目が、科学と研究における自由、インテグリティ及びセキュリティの推進と保護ということです。去年のイギリスが議長国をしましたG7の科学大臣会合で、研究セキュリティとインテグリティについて、各国明確な定義といいたいまいしょうか、考え方が国それぞれに違いますので、考え方を合わせていく必要があるということで専門家のワーキンググループが立ち上げられました。このたび、この専門家会合において、セキュリティとインテグリティの原則、これは国際的な枠組みの中では初めてまとめられたものだとして認識しておりますが、それがまとまったということ、これを歓迎したということが一つ大きな話でございました。

それと、その1ポツの4番目のポツにあります。オープンサイエンスの作業部会というのがG7の下に設けられていますが、そこで研究データの共有インフラを作っていくってはどうかという検討をしております。そこが支持されたということです。この点、来年日本が議長国になりますが、そこまではG7が中心になって研究データを共有していくインフラを作っていくという方向で専門的な検討もなされる見込みでありまして、これは来年日本が議長国になるときの一つの大きなポイントになってくると思われま。

そのほか、2番目は気候変動に関する研究ということで、特に二酸化炭素除去技術、CDR、について、これはG7としても知見を共有していきましょうという話。また、改めて2050年カーボンニュートラルを見据えたときに、海のメカニズムというのをしっかり見ていかなきゃいけないということで、その部分でも協力していきましょうという話がございました。

3番目ですが、これはコロナ感染症の後遺症です。新型コロナ関係については、G7のヘルストラック、健康大臣の会合の方で取り上げておりますが、後遺症の問題というのが世界的にエマージングになってきており、その部分は科学トラックでもきちんとフォローしていく必要があるということが確認されました。

概要以上ですが、来年、日本が議長国として開催するG7に向けて、今回の結果もベースにしてこれからしっかり検討を深めていかなければいけないということを改めて認識した次第です。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

では、これに関する御質問等お受けしたいと思いますが、多分来年のG7に向けた日本としての提案の方向性みたいな議論は現場でもあったと聞いていますが、それに向けての御提言等もあってもよろしいかなと思います。個人的にはオープンサイエンスの話は結構大きな話として、日本は結構進んでいますので、やっていくことになるのだろうなとは思っておりますが、議員の先生方、何かございましたら、今の時点で御意見いただければいいと思いますが、いかがでいらっしゃいますか。

藤井議員。

○藤井議員 はい、ありがとうございます。

インテグリティとセキュリティのプリンシプルが出来上がって歓迎されたということですが、この後の道行き、来年にも向けての作業はどのようなことが想定されているか、という議論はございましたか。

○井上事務局長補 この一般的な原則、一般的な考え方はできたのですが、その考え方を浸透させていく必要性が認識されています。大学を始めとする色々な組織にセキュリティ、インテグリティについて、職員として取り扱う方もいれば、研究者として自ら関わる方もありますが、そうしたところに浸透させていくためにどういうことが必要かということで、バーチャルアカデミーというオンライン上で教育を行うツールを作れないか。あと、それに関連してツールキットという、やはりそのための材料を提供するものを、これはもともとEUでアクティビティがあるのですが、そういったものを使えるようにしていく必要があるのではないかとということで、検討が進んでいます。来年日本が議長国になる頃にはもっと具体化してくるのではないかと考えております。

○上山議員 よろしいですか。

○藤井議員 はい、ありがとうございます。

○上山議員 では、次は佐藤議員ですね、その後梶原議員をお願いします。

○佐藤議員 ありがとうございます。

今回の会合で大野副大臣が日本の科学技術戦略等についてコメントをされるなり説明をされるような機会があったのかどうか、またもしそうであればどういう御説明をされたのかという点が1点。

それから、2点目は、冒頭のコミュニケの総論部分でウクライナの問題も議論されているとすれば、経済安全保障に関わる議題というものが議論されたように見受けられる訳ですが、特にG7ですので、価値観を共有する同盟国におけるサプライチェーンの安全性を議論するには非常に適切な場であったのではないかと思います。これはある意味で中国を念頭に置いてということですが、そういったような議論がなされたのかどうか、以上2点について御存じであれば教えていただきたいと思います。

○井上事務局長補 大野副大臣から、それぞれの議題について日本の取組を、例えばセキュリティ、インテグリティに関していえば、昨年日本がインテグリティのガイドラインを策定したこと、また今年経済安全保障の法案が通過した状況などを御紹介をさせていただいております。

その議論の中で、2番目の御質問ですが、サプライチェーンに関わるような話題も出ましたが、実はその点はトレードの大臣会合がございまして、そちらの方でメインに扱っておりますものですから、科学の大臣会合の中では深い突っ込んだ議論はございませんでした。

○上山議員 よろしいですか。

では、梶原議員、どうぞ。

○梶原議員 日本で来年開催されるということもあるのでコメントします。今進んでいる基本計画の中で、個人の幸せ、ウェルビーイングと言っている訳ですが、この総論のところにある人権と自由の尊重とか、不平等の格差をなくすだとか、そういった話題、方向感もアジェンダに入ってくるといいのではないかと思います。1項目に技術の責任ある利用を強調、と書かれており、そこに係ってくるのではないかと思います。

○井上事務局長補 正に今おっしゃられたところは根本的なところの視点として、各G7の閣僚からもコメントはございましたし、共有されているところと考えます。来年も科学の自由ということは引き続き大きなテーマになると思いますし、それがいかに人の幸せにつながるかという視点もベースとして持つておく必要があると認識してございます。

○上山議員 よろしいでしょうか。

よろしければ。

恐らくこれは科学技術外交の面での話と、ここから反映するフィードバックとしての内政と  
いいますか国内の問題があるとする、この研究セキュリティとインテグリティの話は密接に  
経済安全保障の話と関わってくるだろうと認識をしております。経済安全保障のファンディン  
グの話ということも踏まえて、日本の立ち位置についてこの会議の中で立ち位置を決めて、G  
7に向けての話になっていけばいいのかなというふうに思っております。

それでは、この議題は今のところ御意見ないようですので、ここで終えたいと思います。

どうもありがとうございました。

午前10時14分 閉会